

図 11.9.1.5(2) 昆虫類の調査地点位置図
(メガネサナエ調査)

記号	名称
	羽化殻・羽化個体調査
	一級河川
	湖沼

注：成虫調査及び幼虫調査の地点は、種の保護の観点から示していない。

出典：「諏訪建設事務所管内図」(平成 29 年 3 月 長野県)
「河川調書」(平成 11 年 4 月 長野県)

記号	名称
	都市計画対象道路事業実施区域
	行政界
	調査対象外

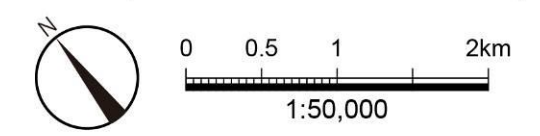
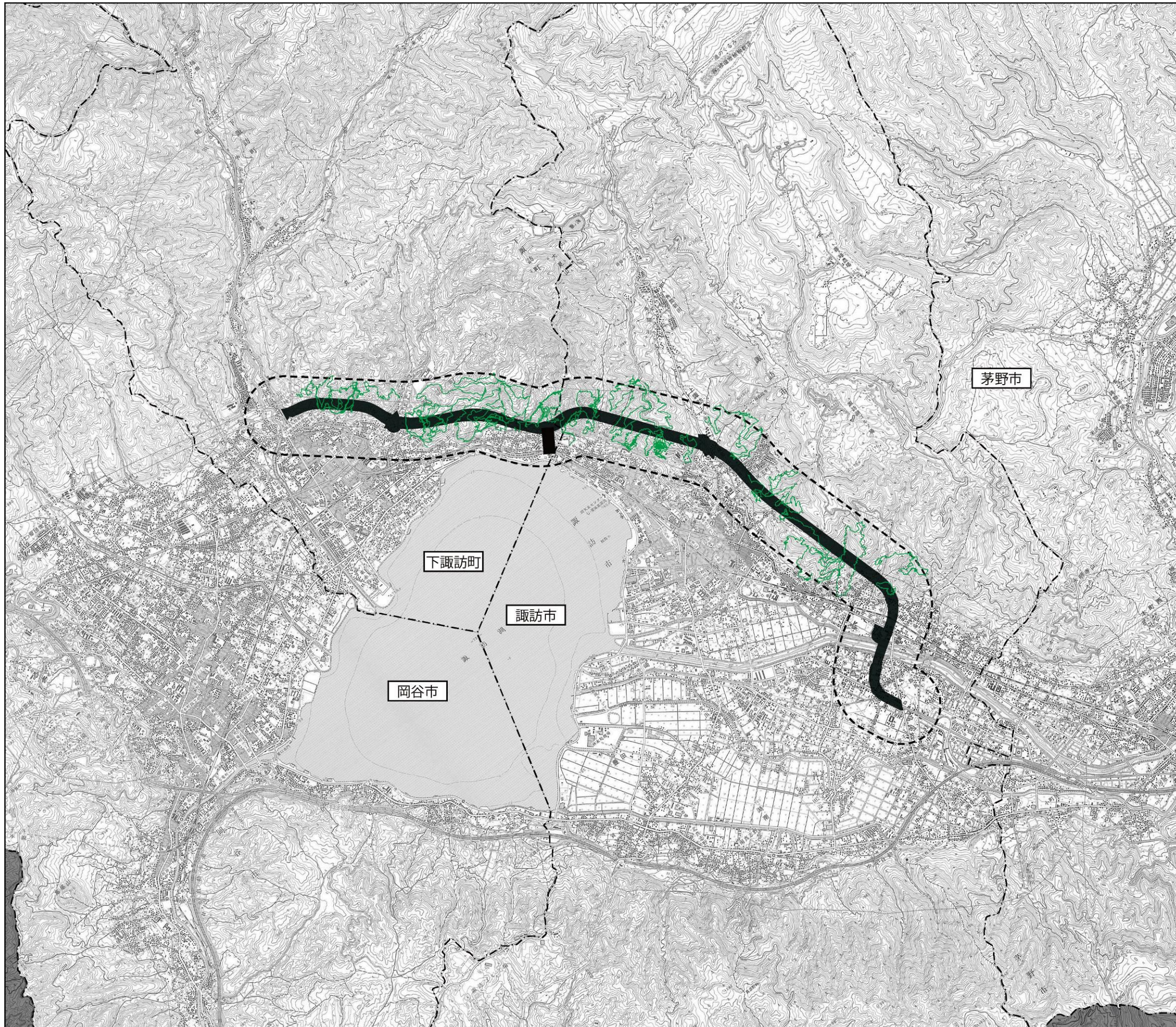


図 11.9.1.5(3) 昆虫類の調査地点位置図
(オオムラサキ食草分布把握調査)



記号	名称
	直接観察
	調査地域

記号	名称
	都市計画対象道路事業実施区域
	行政界
	調査対象外

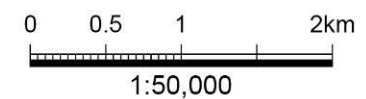
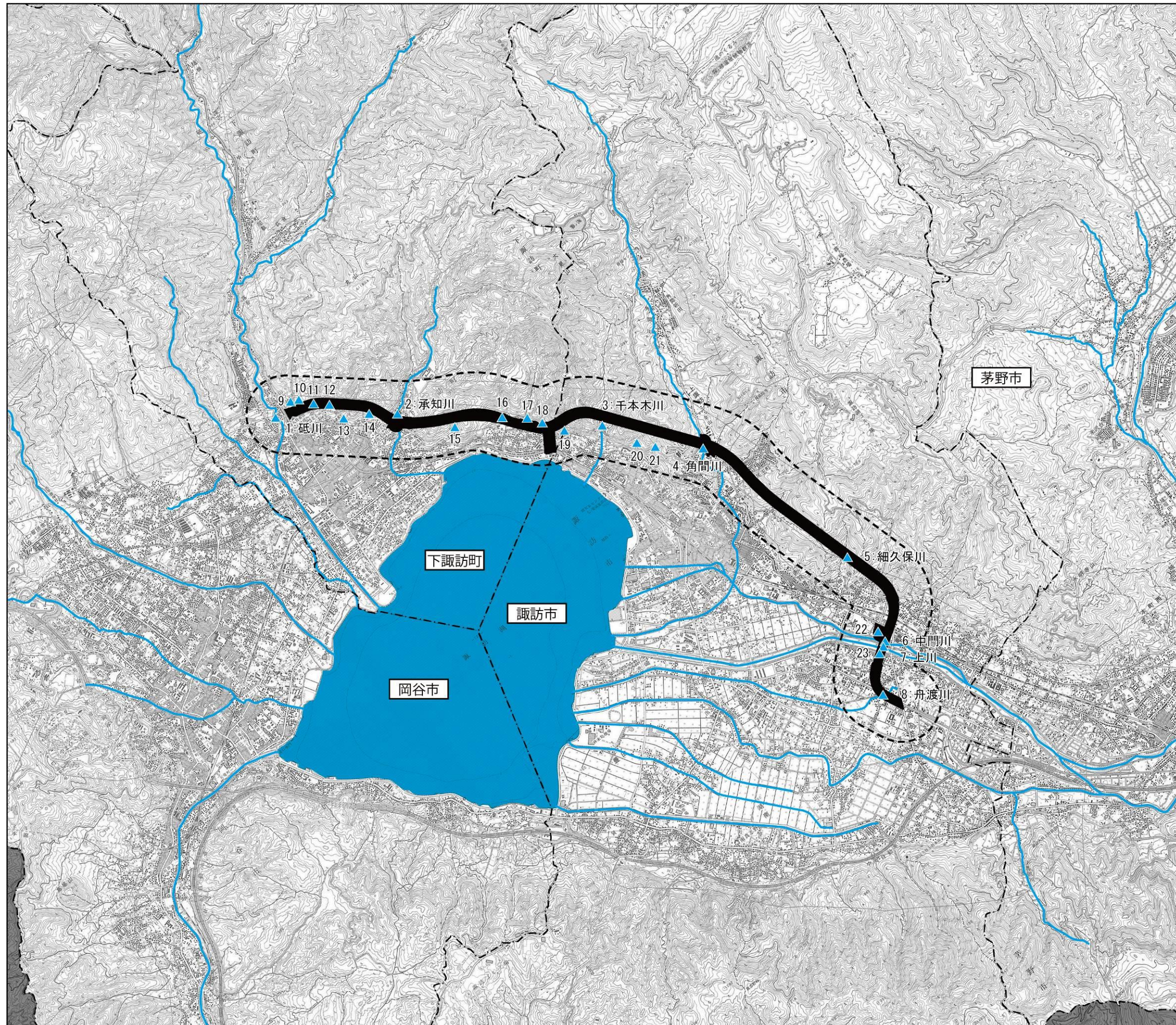


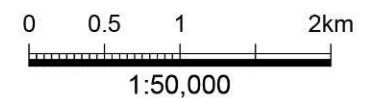
図 11.9.1.6 底生動物の調査地点位置図



記号	名称
▲	直接観察及び採取・コドラート法
—	一級河川
■	湖沼
---	調査地域

出典：「諏訪建設事務所管内図」（平成 29 年 3 月 長野県）
「河川調書」（平成 11 年 4 月 長野県）

記号	名称
—	都市計画対象道路事業実施区域
---	行政界
■	調査対象外



(4) 調査期間等

既存資料調査は、最新の資料が入手可能な時期に行いました。

現地調査は、動物相の状況については、春夏秋冬の4季調査することを基本とし、そこに生息する動物を確認しやすい時期及び時間帯としました。重要な種等の状況については、重要な種等の生態を踏まえ、その生息を確認しやすい時期及び時間帯としました。ただし、猛禽類については、必要に応じ、調査期間を適宜拡大しました。

現地調査の調査期間は、表 11.9.1.3 に示すとおりです。

表 11.9.1.3 (1) 現地調査の調査期間

調査項目	調査方法	調査期間
哺乳類	直接観察及びフィールドサイン法（自動撮影装置の設置含む）	【日中】 春季 : 平成 29 年 5 月 15 日～5 月 18 日 夏季 : 平成 29 年 8 月 21 日～8 月 24 日 秋季 : 平成 29 年 11 月 13 日～11 月 16 日 冬季 : 平成 30 年 1 月 29 日～2 月 1 日 【夜間(コウモリ類対象)】 夏季 : 平成 29 年 6 月 29 日～6 月 30 日 平成 29 年 7 月 27 日～7 月 28 日 秋季 : 平成 29 年 9 月 14 日～9 月 15 日
	トラップによる捕獲	【シャーマントラップ・ピットホールトラップ】 春季 : 平成 29 年 5 月 29 日～5 月 31 日 夏季 : 平成 29 年 8 月 21 日～8 月 24 日 秋季 : 平成 29 年 11 月 13 日～11 月 16 日 【カゴ罠】 春季 : 平成 29 年 5 月 22 日～5 月 25 日 夏季 : 平成 29 年 7 月 18 日～7 月 21 日 秋季 : 平成 29 年 9 月 19 日～9 月 22 日 冬季 : 平成 30 年 2 月 6 日～2 月 9 日 【カスミ網・ハーブトラップ】 夏季 : 平成 29 年 6 月 29 日～6 月 30 日 平成 29 年 7 月 27 日～7 月 28 日 秋季 : 平成 29 年 9 月 14 日～9 月 15 日
	巣箱調査	巣箱設置 : 平成 29 年 6 月 22 日～6 月 23 日 自動撮影装置設置 : 平成 29 年 9 月 18 日～9 月 19 日 巣箱回収 : 平成 29 年 10 月 19 日 平成 30 年 10 月 31 日 自動撮影装置回収 : 平成 30 年 3 月 13 日

表 11.9.1.3(2) 現地調査の調査期間

調査項目	調査方法	調査期間
鳥類 (一般鳥類)	直接観察、 ラインセンサス法、 定点観察法	春季 : 平成 29 年 5 月 16 日～5 月 19 日 平成 30 年 5 月 9 日～5 月 10 日 夏季 : 平成 29 年 6 月 21 日～6 月 23 日 平成 30 年 6 月 13 日～6 月 14 日 秋季 : 平成 29 年 9 月 27 日～9 月 29 日 平成 29 年 10 月 4 日 平成 30 年 9 月 5 日～9 月 6 日 冬季 : 平成 30 年 1 月 30 日～2 月 2 日
鳥類 (猛禽類)	定点観察法	H29 年繁殖期 : 平成 29 年 1 月 11 日～1 月 12 日 平成 29 年 1 月 13 日～1 月 14 日 ^{※1} 平成 29 年 2 月 6 日～2 月 7 日 平成 29 年 2 月 8 日、2 月 14 日 ^{※1} 平成 29 年 3 月 2 日～3 月 3 日 平成 29 年 4 月 24 日～4 月 25 日 平成 29 年 5 月 23 日～5 月 24 日 平成 29 年 6 月 27 日～6 月 28 日 平成 29 年 7 月 7 日～7 月 8 日 ^{※2} 平成 29 年 7 月 25 日～7 月 26 日 平成 29 年 7 月 30 日～7 月 31 日 ^{※2} 平成 29 年 8 月 28 日～8 月 29 日 H30 年繁殖期 : 平成 30 年 1 月 13 日～1 月 14 日 ^{※1} 平成 30 年 1 月 29 日～1 月 30 日 平成 30 年 2 月 6 日～2 月 7 日 ^{※1} 平成 30 年 2 月 26 日～2 月 27 日 平成 30 年 3 月 12 日～3 月 13 日 平成 30 年 4 月 25 日～4 月 26 日 平成 30 年 5 月 30 日～5 月 31 日 平成 30 年 6 月 18 日～6 月 19 日 平成 30 年 7 月 3 日～7 月 4 日 ^{※2} 平成 30 年 7 月 18 日～7 月 19 日 平成 30 年 7 月 26 日～7 月 27 日 ^{※2} 平成 30 年 8 月 20 日～8 月 21 日 平成 30 年 9 月 19 日～9 月 21 日 ^{※3} 平成 30 年 10 月 22 日～10 月 24 日 ^{※3} 平成 30 年 11 月 19 日～11 月 21 日 ^{※3} 平成 30 年 12 月 22 日～12 月 24 日 ^{※3} 平成 31 年 1 月 13 日～1 月 14 日 ^{※1} 平成 31 年 1 月 16 日～1 月 18 日 ^{※3} 平成 31 年 2 月 6 日～2 月 7 日 ^{※1} 平成 31 年 2 月 20 日～2 月 22 日 ^{※3}

表 11.9.1.3(3) 現地調査の調査期間

調査項目	調査方法	調査期間
鳥類 (猛禽類)	林内踏査	H29年繁殖期：平成29年6月17日 平成29年6月27日～6月29日 平成29年7月28日 平成29年8月7日 平成29年8月9日 平成29年8月28日～8月29日 平成29年11月14日～11月15日 H30年繁殖期：平成30年6月18日～6月19日 平成30年7月3日～7月4日 平成30年7月18日～7月19日 平成30年8月20日～8月21日 平成30年10月17日 平成30年11月15日
鳥類 (フクロウ類)	直接観察、林内踏査	H29年繁殖期：平成29年1月11日 平成29年2月6日 平成29年3月2日、3月4日 平成29年4月23日～4月25日 平成29年5月22日～5月24日 平成29年6月26日～6月28日 平成29年7月24日～7月26日 平成29年8月9日 平成29年8月27日～8月29日 H30年繁殖期：平成30年1月28日～1月29日 平成30年2月25日～2月26日 平成30年3月11日～3月13日 平成30年4月24日～4月26日 平成30年5月29日～5月31日 平成30年6月7日～6月9日 平成30年6月18日～6月20日 平成30年7月17日～7月19日 平成30年8月19日～8月21日
両生類	直接観察	春季：平成29年5月10日～5月12日 夏季：平成29年6月26日～6月28日 秋季：平成29年9月5日～9月7日
爬虫類	直接観察	春季：平成29年5月10日～5月12日 夏季：平成29年6月26日～6月28日 秋季：平成29年9月5日～9月7日

表 11.9.1.3(4) 現地調査の調査期間

調査項目	調査方法	調査期間
魚類	直接観察及び採取	春季 : 平成 29 年 5 月 22 日～5 月 25 日 夏季 : 平成 29 年 7 月 18 日～7 月 21 日 秋季 : 平成 29 年 9 月 19 日～9 月 22 日 冬季 : 平成 30 年 2 月 6 日～2 月 9 日
	トラップ等による採取	春季 : 平成 29 年 5 月 22 日～5 月 25 日 夏季 : 平成 29 年 7 月 18 日～7 月 21 日 秋季 : 平成 29 年 9 月 19 日～9 月 22 日 冬季 : 平成 30 年 2 月 6 日～2 月 9 日
昆虫類	直接観察及び採取	【日中】 早春季 : 平成 29 年 5 月 8 日～5 月 10 日 春季 : 平成 29 年 5 月 29 日～6 月 2 日 夏季 : 平成 29 年 7 月 31 日～8 月 4 日 秋季 : 平成 29 年 9 月 25 日～9 月 28 日 【夜間（ホタル類対象）】 夏季 : 平成 29 年 6 月 15 日～6 月 16 日 平成 29 年 7 月 6 日～7 月 9 日 平成 29 年 7 月 24 日～7 月 25 日 平成 29 年 7 月 30 日
	ライトトラップ法	春季 : 平成 29 年 5 月 29 日～6 月 1 日 夏季 : 平成 29 年 7 月 30 日～8 月 3 日 秋季 : 平成 29 年 9 月 25 日～9 月 27 日
	ベイトトラップ法	春季 : 平成 29 年 5 月 29 日～6 月 1 日 夏季 : 平成 29 年 7 月 30 日～8 月 3 日 秋季 : 平成 29 年 9 月 25 日～9 月 27 日
	メガネサナエ調査	【羽化殻・羽化個体調査】 夏季 : 平成 29 年 7 月 6 日～7 月 7 日 平成 30 年 7 月 23 日 【成虫調査】 夏～秋季 : 平成 29 年 8 月 30 日～8 月 31 日 平成 29 年 9 月 5 日、9 月 14 日 平成 30 年 7 月 23 日～7 月 25 日 平成 30 年 8 月 3 日 【幼虫調査】 冬季 : 平成 29 年 12 月 12 日
	オオムラサキ 食草分布把握調査	冬季 : 平成 29 年 12 月 13 日 夏季 : 平成 30 年 8 月 22 日～8 月 24 日 平成 30 年 9 月 5 日～9 月 6 日 平成 30 年 9 月 18 日

表 11.9.1.3(5) 現地調査の調査期間

調査項目	調査方法	調査期間
底生動物	直接観察及び採取（定性採取）、コドラート法（定量採取）	春季 : 平成 29 年 5 月 22 日～5 月 25 日 平成 30 年 5 月 22 日～5 月 24 日 夏季 : 平成 29 年 7 月 18 日～7 月 21 日 平成 30 年 7 月 26 日～7 月 27 日 秋季 : 平成 29 年 9 月 19 日～9 月 22 日 平成 29 年 9 月 27 日～9 月 28 日 平成 30 年 9 月 21 日 冬季 : 平成 30 年 1 月 31 日～2 月 2 日 平成 30 年 2 月 6 日～2 月 9 日 平成 31 年 2 月 7 日

※1：越冬期のオオワシを対象として実施した。

※2：オオタカの巣立ち幼鳥を対象として実施した。

※3：平成 30 年 9 月～12 月、平成 31 年 1～2 月調査は、クマタカの平成 30 年繁殖期の巣立ち幼鳥を対象としたため、平成 30 年繁殖期調査として扱った。

(5) 調査結果

ア. 既存資料調査結果

既存資料調査における動物相の状況及び重要な種等の状況の調査結果は、「第 4 章 4.1.5 動植物の生息又は生息、植生及び生態系の状況 1) 動植物の生息又は生息の状況」に示すとおりです。

イ. 現地調査結果

現地調査結果の概要は、表 11.9.1.4 に示すとおりです。

表 11.9.1.4 現地調査結果の概要

調査項目	確認種・分類群数	主な確認種・分類群
哺乳類	6 目 16 科 26 種	アズマモグラ、キクガシラコウモリ、ヒナコウモリ科、ノウサギ、ニホンリス、ホンドモモンガ、ムササビ、ヤマネ、ハタネズミ、アカネズミ、ツキノワグマ、アライグマ、タヌキ、キツネ、テン、アナグマ、ハクビシン、イノシシ、ニホンジカ、カモシカ等
鳥類	16 目 42 科 110 種	ヤマドリ、カルガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワウ、ヨシゴイ、コサギ、オオバン、ホトトギス、ハチクマ、オオワシ、オオタカ、クマタカ、フクロウ、アオバズク、カワセミ、コゲラ、ハヤブサ、カケス、ヤマガラ、イワツバメ、ウグイス、センダイムシクイ、オオヨシキリ、ガビチョウ、ムクドリ、ルリビタキ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ等
両生類	2 目 5 科 8 種	イモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、タゴガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ウシガエル、シュレーゲルアオガエル
爬虫類	1 目 3 科 6 種	ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ、ヤマカガシ
魚類	6 目 9 科 21 種	コイ、ギンブナ、オイカワ、アブラハヤ、ウグイ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、ナマズ、ワカサギ、サツキマス（アマゴ）、カジカ、オオクチバス、ウキゴリ、ヌマチチブ等
昆虫類	21 目 272 科 1,834 種	フタスジモンカゲロウ、オツネトンボ、メガネサナエ、ウスバキトンボ、ヤマトゴキブリ、オオカマキリ、ヤマトシロアリ、エンマコオロギ、エダナナフシ、コブハサミムシ、ウスベニチャタテ、アブラゼミ、チャバネヒメカゲロウ、オオムラサキ、クロナガオサムシ、アズマオオズアリ、ヤマトシリアゲ、サキグロムシヒキ、ムラサキトビケラ、ウスバシロチョウ、ゲンジボタル、ヘイケボタル等
底生動物	13 綱 30 目 122 科 330 分類群	ナミウズムシ、マルタニシ、カワニナ、モノアラガイ、サカマキガイ、ユリミミズ、ツリミミズ科、シマイシビル、オヨギダニ科、オオエゾヨコエビ、サワガニ、フタモンコカゲロウ、シロハラコカゲロウ、ウエノヒラタカゲロウ、ミルンヤンマ、ダビドサナエ、ヤマトカワゲラ、ヒロバネアミメカワゲラ、アメンボ、コガタシマトビケラ、ヒゲナガカワトビケラ、キタガミトビケラ、ウスバガガンボ属、ケブカエリユスリカ属、ハマダラナガレアブ等

注：底生動物は同定知見が無く種まで同定できないものを含むため、学識者の助言を参考に分類群という記載とした。

ア) 哺乳類

a) 哺乳類の生息状況

現地調査において6目16科26種の哺乳類が確認されました。現地調査結果の概要は、表 11.9.1.5 に示すとおりです。

哺乳類の生息環境は、二次林や植林などの樹林、ススキ群落・畑地・水田等の草地・耕作地、高水敷・湖岸の草地を含む水域・水辺、市街地に大別されます。

樹林では、テングコウモリ、ニホンリス、ムササビ、ヒメネズミ、ツキノワグマ、カモシカ等が確認されました。草地・耕作地では、アズマモグラ、ノウサギ、アカネズミ、タヌキ、イノシシ等が確認されました。水域・水辺では、カワネズミ、キツネ、ハタネズミ、アカネズミ等が確認されました。市街地では、アズマモグラ、タヌキ、ハクビシン等が確認されました。

表 11.9.1.5 哺乳類の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	6目13科20種	カワネズミ、ヒミズ、キクガシラコウモリ、ノウサギ、ニホンリス、ホンドモモンガ、ハタネズミ、アカネズミ、ヒメネズミ、ツキノワグマ、タヌキ、テン、ニホンアナグマ、ハクビシン、イノシシ、ニホンジカ、カモシカ等
夏季	5目12科16種	カワネズミ、アズマモグラ、テングコウモリ、ヒナコウモリ科 ^{※1} 、コウモリ目 ^{※2} 、ニホンリス、ムササビ、アカネズミ、ツキノワグマ、キツネ、テン、ハクビシン、イノシシ、ニホンジカ、カモシカ等
秋季	5目13科20種	ヒミズ、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、アブラコウモリ、ニホンリス、ムササビ、ヤマネ、アカネズミ、ツキノワグマ、アライグマ、タヌキ、イタチ、ハクビシン、イノシシ、ニホンジカ等
冬季	5目8科13種	アズマモグラ、ノウサギ、ホンドモモンガ、ムササビ、キツネ、イタチ、ニホンアナグマ、ハクビシン、イノシシ、ニホンジカ等

※1：バッドディテクターによる45kHz前後の周波数帯の鳴き声を確認されたが、種の同定には至らなかった。

※2：バッドディテクターによる20kHz前後の周波数帯の鳴き声を確認されたが、種の同定には至らなかった。

b) 重要な哺乳類

現地調査により確認された重要な哺乳類は5目6科7種でした。現地調査及び既存資料調査で確認された重要な哺乳類とその選定基準は表 11.9.1.6 に、確認位置は図 11.9.1.7 に示すとおりです。

表 11.9.1.6 重要な哺乳類

番号	目名	科名	種名	確認状況		重要種選定基準						
				現地	文献	I	II	III	IV	V		
1	モグラ	トガリネズミ	シントウトガリネズミ		●						NT	
2			カワネズミ	●	●						NT	
3		モグラ	ミズラモグラ		●					NT	VU	
4	コウモリ	ヒナコウモリ	シナノホオヒゲコウモリ		●						EN	
5			ヤマコウモリ		●					VU	VU	
6			ヒナコウモリ		●							EN
7			ウサギコウモリ		●							VU
-			ヒナコウモリ科 ^{※1}	●								※2
-			コウモリ目 ^{※3}	●								※4
8	ネズミ	リス	ホンドモモンガ	●	●	県天					NT	
9		ヤマネ	ヤマネ	●	●	国天					NT	
10		ネズミ	カヤネズミ		●						VU	
11	ネコ	クマ	ツキノワグマ	●	●		際				LP	
12		イタチ	オコジョ		●	県天				NT	NT	
13	ウシ	ウシ	カモシカ	●	●	特天						
5目9科13種				7	13	4	1	0	3	12		

※1：バットディテクターによる45kHz前後の周波数帯の鳴き声の確認であり種の同定に至らなかったが、文献調査により確認されたシナノホオヒゲコウモリ、ウサギコウモリの可能性が考えられるため、重要種として扱った。

※2：重要種選定基準Vではシナノホオヒゲコウモリが「EN」、ウサギコウモリが「VU」として掲載されている。
 ※3：バットディテクターによる20kHz前後の周波数帯の鳴き声の確認であり種の同定に至らなかったが、文献調査により確認されたヤマコウモリ、ヒナコウモリの可能性が考えられるため、重要種として扱った。

※4：重要種選定基準IVではヤマコウモリが「VU」として、重要種選定基準Vではヤマコウモリが「VU」、ヒナコウモリが「EN」として掲載されている。

注：重要種選定基準は以下のとおり。

I：「文化財保護法」（昭和25年5月30日法律第214号、最終改正：平成30年6月8日法律第42号）及び「文化財保護条例」（昭和50年12月25日長野県条例第44号、最終改正：平成17年3月28日長野県条例第38号）等に基づいて指定されている天然記念物

特天：特別天然記念物，国天：国指定天然記念物，県天：県指定天然記念物，
 諏天：諏訪市指定天然記念物，下天：下諏訪町指定天然記念物

II：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日法律第75号、最終改正：令和元年6月14日法律第37号）

内：国内希少野生動植物種，際：国際希少野生動植物種

III：「長野県希少野生動植物保護条例」（平成15年3月24日長野県条例第32号）

特：特別指定希少野生動植物，指：指定希少野生動植物

IV：「環境省レッドリスト2020」（令和2年3月 環境省）

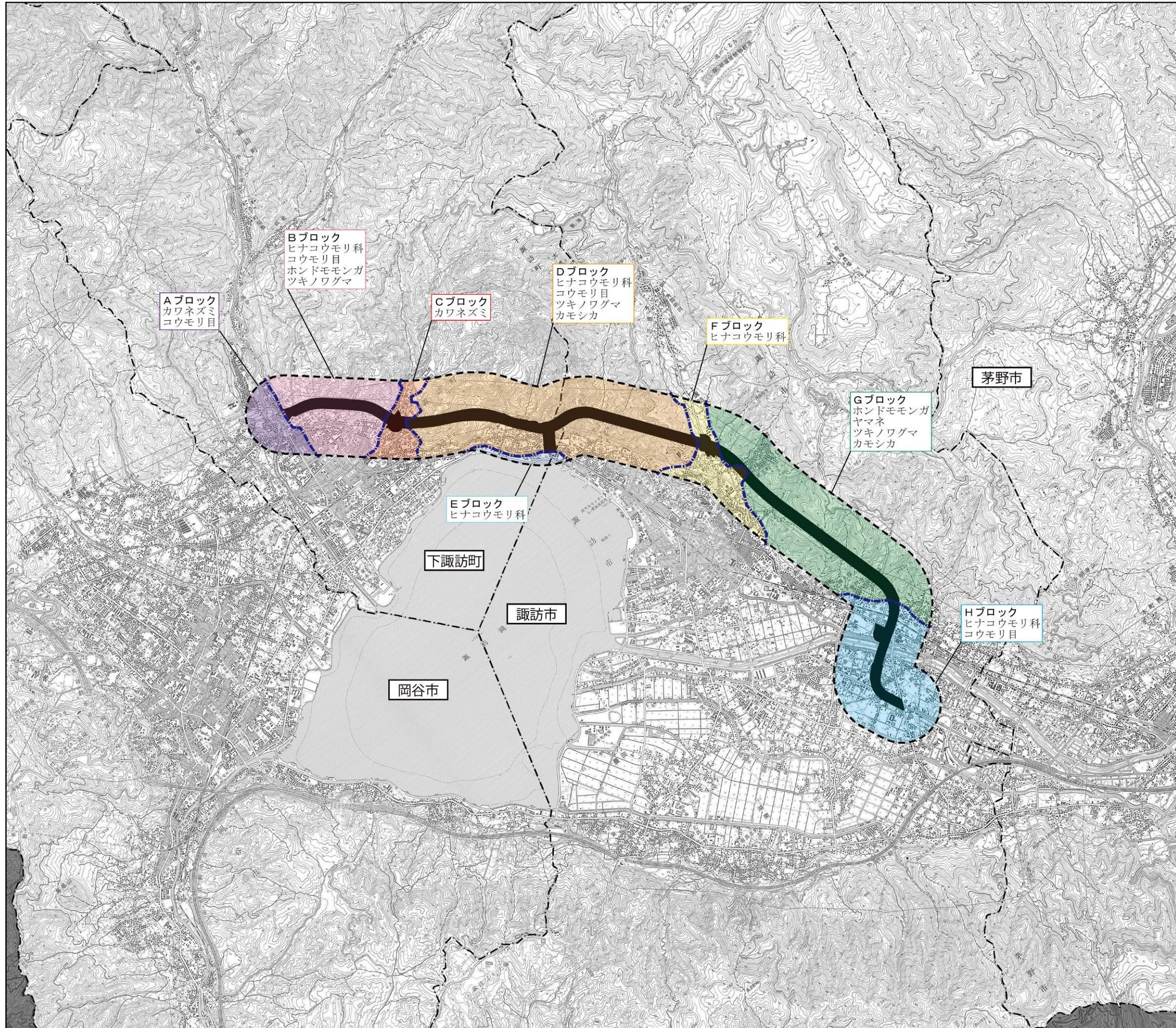
EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR+EN：絶滅危惧I A類，CR：絶滅危惧I A類，EN：絶滅危惧I B類，
 VU：絶滅危惧II類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足，LP：絶滅のおそれのある地域個体群

V：「長野県版レッドリスト（動物編）2015」（平成27年3月 長野県）

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧I A類，EN：絶滅危惧I B類，VU：絶滅危惧II類，
 NT：準絶滅危惧，DD：情報不足，LP：絶滅のおそれのある地域個体群，N：留意種

配列・分類：「日本産野生生物目録 -脊椎動物編-」（平成5年 環境庁）

図 11.9.1.7 重要な哺乳類の確認位置図

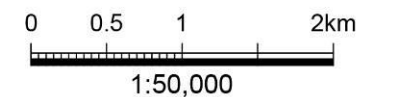


記号	名称
	調査地域

注：重要種の確認位置は種の保護の観点から確認地点は示さず、調査地域をA～Hの8つのブロックに区分し範囲内で確認された種を示した。

- A：山地・丘陵地・台地・低地に耕作地、住宅地等が広がり、砥川を含む範囲
- B：山地・丘陵地・台地に樹林地、山裾部及び低地に耕作地、住宅地等が広がる範囲
- C：山地・丘陵地・台地・低地に耕作地、住宅地等が広がり、承知川を含む範囲
- D：山地・丘陵地・台地に主に樹林地、山裾部に耕作地、住宅地等が広がり、千本木川を含む範囲
- E：諏訪湖岸の範囲
- F：山地・丘陵地・台地に耕作地、住宅地等が広がり、角間川を含む範囲
- G：山地・丘陵地・台地に主に樹林地、山裾部に耕作地、住宅地等が広がる範囲
- H：低地に耕作地、住宅地等が広がり、上川、中門川、舟渡川を含む範囲

記号	名称
	都市計画対象道路事業実施区域
	行政界
	調査対象外



イ) 鳥類

a) 鳥類の生息状況

現地調査において16目42科110種の鳥類が確認されました。現地調査結果の概要は、表 11.9.1.7 に示すとおりです。

鳥類の生息環境は、二次林や植林などの樹林、ススキ群落・畑地・水田等の草地・耕作地、高水敷・湖岸の草地を含む水域・水辺、市街地に大別されます。

樹林では、オオタカ、クマタカ、フクロウ、コゲラ、サンショウクイ、カケス、シジュウカラ、クロツグミ等が確認されました。なお、大木の生息する社寺林においては、アオバズクが確認されました。草地・耕作地では、キジ、ヤマシギ、モズ、カワラヒワ、ホオジロ、カシラダカ等が確認されました。水域・水辺では、カルガモ、カイツブリ、アオサギ、ミサゴ、オオワシ、オオヨシキリ等が確認されました。市街地では、ドバト、ツバメ、ムクドリ、スズメ等が確認されました。

表 11.9.1.7 鳥類現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	15目35科72種	ヤマドリ、キジ、カルガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、アオバト、ゴイサギ、オオバン、ホトトギス、アマツバメ、ミサゴ、ハチクマ、オオタカ、ノスリ、クマタカ、フクロウ、コゲラ、アオゲラ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ、モズ、オナガ、コガラ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、センダイムシクイ、オオヨシキリ、ゴジュウカラ、ガビチョウ、ムクドリ、クロツグミ、コマドリ、キビタキ、マヒワ、イカル等
夏季	16目36科71種	ヤマドリ、カルガモ、カワアイサ、カイツブリ、アオバト、カワウ、ヨシゴイ、ササゴイ、バン、カッコウ、アマツバメ、コチドリ、ハチクマ、トビ、ハイタカ、オオタカ、イヌワシ、クマタカ、アオバズク、カワセミ、アカゲラ、チョウゲンボウ、サンショウクイ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ヒガラ、ツバメ、ヒヨドリ、ヤブサメ、エナガ、センダイムシクイ、メジロ、オオヨシキリ、コムクドリ、クロツグミ、コサメビタキ、オオルリ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ等
秋季	13目29科58種	ヤマドリ、オカヨシガモ、コガモ、カワアイサ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ダイサギ、コサギ、オオバン、イソシギ、トビ、ツミ、オオタカ、ノスリ、クマタカ、カワセミ、コゲラ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、クキイタダキ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ミソサザイ、ムクドリ、エゾビタキ、キセキレイ、カワラヒワ、ウソ、アオジ等
冬季	13目30科73種	キジ、コハクチョウ、ヒドリガモ、オナガガモ、ミコアイサ、カイツブリ、ドバト、カワウ、コサギ、オオバン、ヤマシギ、オジロワシ、オオワシ、クマタカ、フクロウ、アリスイ、アカゲラ、チョウゲンボウ、モズ、カケス、クキイタダキ、ヤマガラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、カワガラス、トラツグミ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、カヤクグリ、アトリ、ウソ、シメ、カシラダカ、ミヤマホオジロ等

b) 重要な鳥類

現地調査により確認された重要な鳥類は7目9科19種でした。現地調査及び既存資料調査で確認された重要な鳥類とその選定基準は表 11.9.1.8 に、確認位置は図 11.9.1.8 に示すとおりです。

表 11.9.1.8(1) 重要な鳥類

番号	目名	科名	種名	確認状況		重要種選定基準						
				現地	文献	I	II	III	IV	V		
1	キジ	キジ	ウズラ		●				VU	CR		
2	カモ	カモ	マガン		●	国天			NT			
3			アカツクシガモ		●				DD			
4			オシドリ		●					DD	N	
5			トモエガモ		●					VU	EN	
6			ホオジロガモ		●						VU	
7			カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ		●					NT
8	ハジロカイツブリ				●						NT	
9	ペリカン	サギ	ヨシゴイ	●	●				NT	EN		
10			ミゾゴイ		●					VU	EN	
11			ササゴイ	●	●						VU	
12			チュウサギ		●					NT	NT	
13			コサギ	●	●						NT	
14	ツル	クイナ	クイナ		●					DD		
15			ヒクイナ		●					NT	CR	
16	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ		●				NT	VU		
17	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ		●					NT		
18	チドリ	チドリ	ケリ		●					DD	VU	
19			イカルチドリ		●						NT	
20			シロチドリ		●						VU	
21		セイタカシギ	セイタカシギ		●					VU		
22		シギ	ヤマシギ	●							DD	
23			オオジシギ		●						NT	CR
24			コシャクシギ		●			際			EN	
25			ホウロクシギ		●			際			VU	
26			ツルシギ		●						VU	
27			アカアシシギ		●						VU	
28			アオアシシギ		●							VU
29			タカブシギ		●						VU	VU
30			キアシシギ		●							NT
31			オバシギ		●			際				
32			ハマシギ		●						NT	NT
33			タマシギ	タマシギ		●						VU
34	カモメ		コアシサシ		●						VU	CR

表 11.9.1.8(2) 重要な鳥類

番号	目名	科名	種名	確認状況		重要種選定基準				
				現地	文献	I	II	III	IV	V
35	タカ	ミサゴ	ミサゴ	●	●				NT	EN
36		タカ	ハチクマ	●	●				NT	VU
37			オジロワシ	●	●	国天	内		VU	EN
38			オオワシ	●	●	国天	内		VU	CR
39			チュウヒ		●		内		EN	
40			ツミ	●	●					DD
41			ハイタカ	●	●				NT	VU
42			オオタカ	●	●				NT	VU
43			サシバ	●	●				VU	EN
44			イヌワシ	●	●	国天	内	特	EN	CR
45			クマタカ	●	●		内	指	EN	EN
46	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク		●					DD
47			コノハズク		●					VU
48			アオバズク	●	●					EN
49			トラフズク		●					EN
50	サイチョウ	ヤツガシラ	ヤツガシラ		●	県天				
51	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン		●					VU
52			ヤマセミ		●					VU
53		ブッポウソウ	ブッポウソウ		●	県天		特	EN	CR
54	キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ	●	●					NT
55	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	●	●		内		VU	EN
56	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	●	●				VU	N
57		カササギヒタキ	サンコウチョウ	●	●					VU
58		モズ	チゴモズ		●				CR	CR
59			アカモズ		●				EN	EN
60		ヨシキリ	コヨシキリ		●					EN
61		セッカ	セッカ		●					CR
62		ヒタキ	マミジロ		●					NT
63			ノビタキ		●					NT
64		ホオジロ	ホオアカ		●					NT
65			ノジコ		●				NT	NT
66	コジュリン			●				VU	CR	
15目27科66種				19	65	6	9	3	39	55

注：重要種選定基準は以下のとおり。

I：「文化財保護法」（昭和25年5月30日法律第214号、最終改正：平成30年6月8日法律第42号）及び「文化財保護条例」（昭和50年12月25日長野県条例第44号、最終改正：平成17年3月28日長野県条例第38号）等に基づいて指定されている天然記念物

特天：特別天然記念物，国天：国指定天然記念物，県天：県指定天然記念物，
 諏天：諏訪市指定天然記念物，下天：下諏訪町指定天然記念物

II：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日法律第75号、最終改正：令和元年6月14日法律第37号）

内：国内希少野生動植物種， 際：国際希少野生動植物種

III：「長野県希少野生動植物保護条例」（平成15年3月24日長野県条例第32号）

特：特別指定希少野生動植物， 指：指定希少野生動植物

IV：「環境省レッドリスト2020」（令和2年3月 環境省）

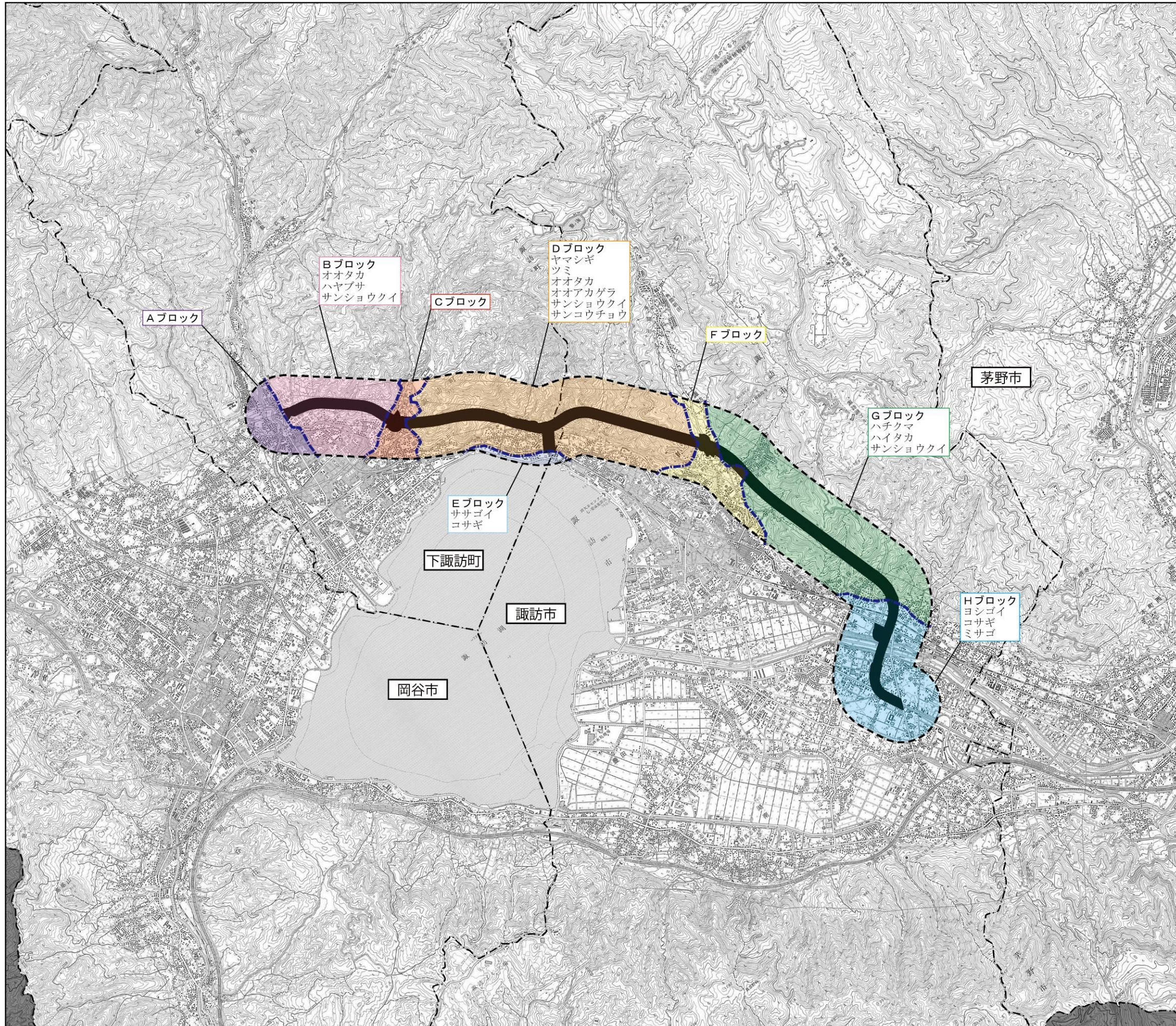
EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR+EN：絶滅危惧I類，CR：絶滅危惧IA類，EN：絶滅危惧IB類，
 VU：絶滅危惧II類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足，LP：絶滅のおそれのある地域個体群

V：「長野県版レッドリスト（動物編）2015」（平成27年 3月長野県）

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧IA類，EN：絶滅危惧IB類，VU：絶滅危惧II類，
 NT：準絶滅危惧，DD：情報不足，LP：絶滅のおそれのある地域個体群，N：留意種

配列・分類：「日本鳥類目録 改訂第7版」（平成24年 日本鳥学会）

図 11.9.1.8(1) 重要な鳥類の確認位置図
(鳥類調査結果)

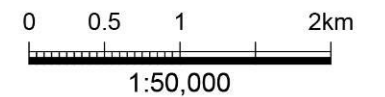


記号	名称
	調査地域

注：重要種の確認位置は種の保護の観点から確認地点は示さず、調査地域をA～Hの8つのブロックに区分し範囲内で確認された種を示した。

- A：山地・丘陵地・台地・低地に耕作地、住宅地等が広がり、砥川を含む範囲
- B：山地・丘陵地・台地に樹林地、山裾部及び低地に耕作地、住宅地等が広がる範囲
- C：山地・丘陵地・台地・低地に耕作地、住宅地等が広がり、承知川を含む範囲
- D：山地・丘陵地・台地に主に樹林地、山裾部に耕作地、住宅地等が広がり、千本木川を含む範囲
- E：諏訪湖岸の範囲
- F：山地・丘陵地・台地に耕作地、住宅地等が広がり、角間川を含む範囲
- G：山地・丘陵地・台地に主に樹林地、山裾部に耕作地、住宅地等が広がる範囲
- H：低地に耕作地、住宅地等が広がり、上川、中門川、舟渡川を含む範囲

記号	名称
	都市計画対象道路事業実施区域
	行政界
	調査対象外



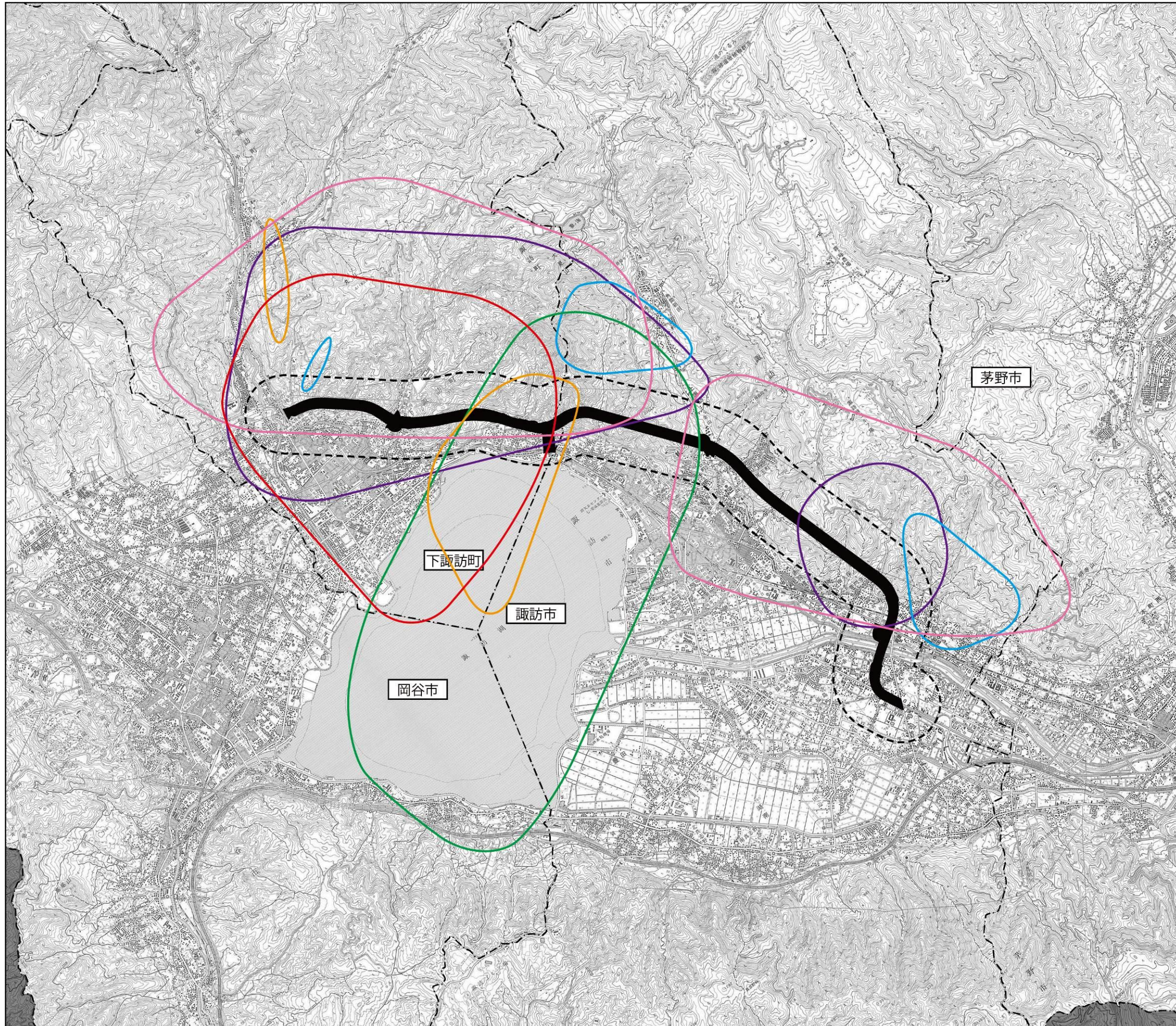


図 11.9.1.8(2) 重要な鳥類の確認位置図
(猛禽類調査結果①)

記号	名称
	調査地域
	ミサゴ
	ハチクマ
	オジロワシ
	オオワシ
	ツミ
	ハイタカ

注：アオバスクの確認位置は、種の保護の観点から示していない。

記号	名称
	都市計画対象道路事業実施区域
	行政界
	調査対象外

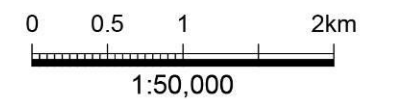
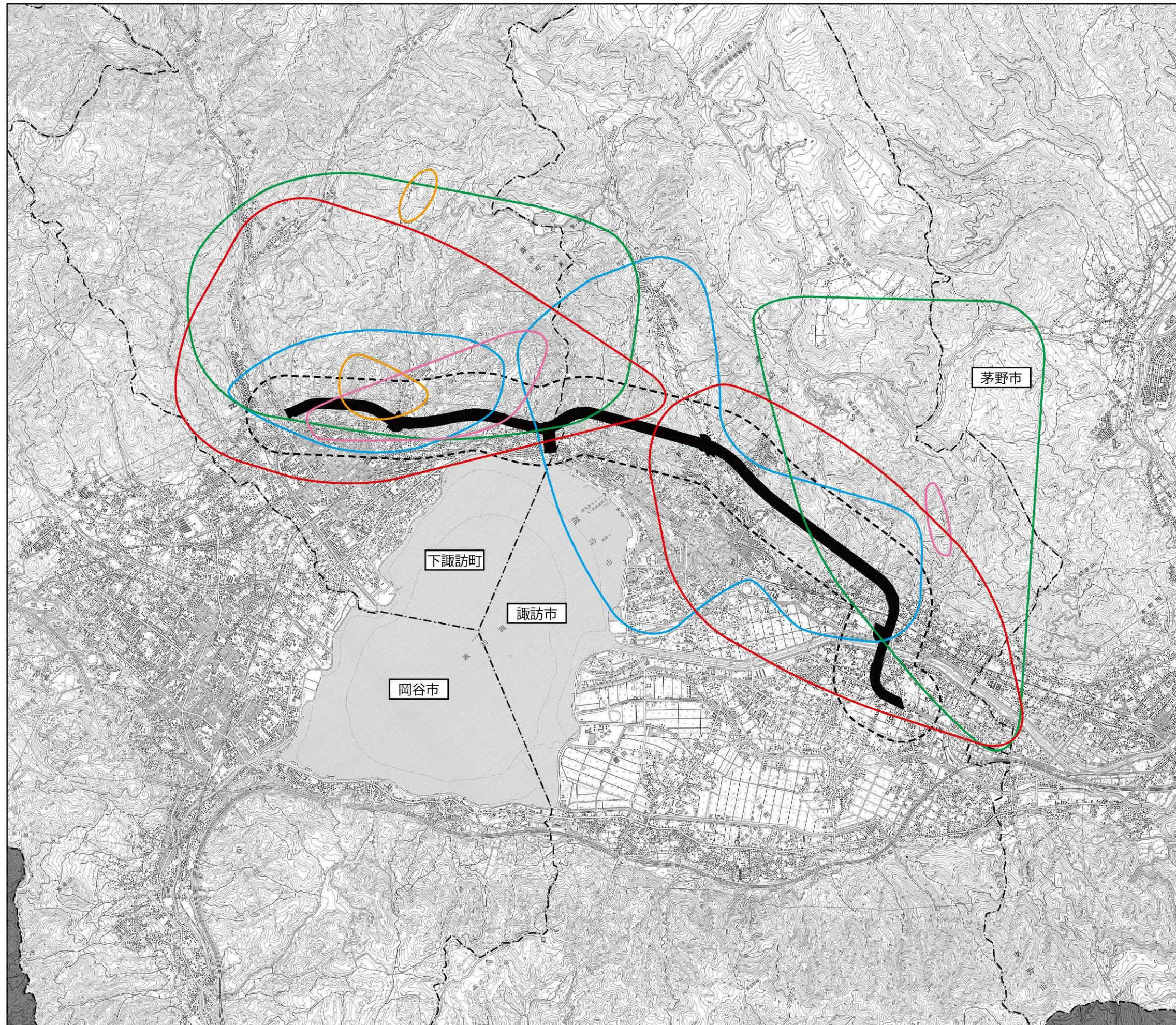


図 11.9.1.8(3) 重要な鳥類の確認位置図
(猛禽類調査結果②)



記号	名称
	調査地域
	オオタカ
	サシバ
	イヌワシ
	クマタカ
	ハヤブサ

注：アオバズクの確認位置は、種の保護の観点から示していない。

記号	名称
	都市計画対象道路事業実施区域
	行政界
	調査対象外

